

# 安心・安全な医療を提供するため みんなで患者さんを支えています。

——草加市立病院——  
 ・診療日 月曜日～金曜日、第1・3土曜日(祝休日を除く)  
 ・受付時間 午前8時～11時(診察は午前9時～)

## 安心・安全な医療の提供をめざして 医療安全管理委員会

当院では、安心・安全な医療を提供するとともに患者サービスの向上を図るため、様々な院内委員会を設置しています。



その一つが「医療安全管理委員会」です。事故はいつでも起こりうることを前提に、できる限りそれを減らし最悪の事態を避けるため、あらゆる方策を講じることを職員共通の認識としています。

医療従事者の不注意や不測の事態が、単独あるいは重複して発生したことによって、医療上望ましくない事態を引き起こしかねません。過ちが医療事故という形で患者さんに実害を及ぼすことのないような仕組みが重要となっています。同委員会では、医療従事者の個人レベルでの事故防止と病院全体での組織的な事故防止の二つの対策を推し進めています。

医療事故を未然に防止するための調査と対策として、インシデントレポートシステム(医療ミス・事故等の報告)を導入し、発生原因、再発防止策の検討を行っています。また、事故につながる可能性がある事例(ヒヤリ・ハット)の把握にも努めています。

この他、研修会等を開催し、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知するとともに、マニュアルの徹底やリスクマネジメントの情報提供を通じて職員個々の安全意識の向上に努めています。

## 過食と野菜不足は要注意!! 栄養科長 小山 由佳

当院の栄養科では、年間およそ1,200件の個別栄養相談を行っています。その80%以上が糖尿病の患者さんです。相談の中で特に問題と思われる点は、夕食時の過食と野菜不足です。

皆さんの食事はどうでしょうか?夕食はボリュームいっぱいなのでは?特に遅い時間の食事や食べ過ぎは要注意です。また、寝る前にお菓子を食べたり、ジュースなどを飲んでいませんか?これらが悪循環となり、朝食をしっかりと食べられない方が増えています。

野菜はしっかりと摂れていますか?夕食ではしっかりと摂っているが、朝・昼食はほとんど摂っていないという方が多く見られます。野菜は毎食、生野菜なら両手一杯、温野菜なら片手に一杯は食べるようにしましょう。また、野菜というとサラダしか頭に浮かばない方が多いようですが、煮物、炒め物、おひたし等いろいろな調理法があります。使い分けて飽きのこないように工夫してみましょう。



食生活について、ちょっと見直してみませんか。

## 医療スタッフのご案内 (平成19年10月1日現在)

- |  |   |
|--|---|
| ◎ 病院事業管理者(兼) 病院長<br>副院長(兼) 医療技術部長<br>副院長<br>診療部長(兼) 外科部長・救急診療科部長<br>診療部長(兼) 消化器科部長 | 高元俊彦(循環器科)<br>土屋史郎(小児科)<br>安水洗彦(産婦人科)<br>西村久嗣<br>矢内常人 |
| □ 診療科目(常勤医師名)  |   |
| 内科   | 小澤直子、宮田由紀、大村綾子  |
| 呼吸器科   | 新謙一、鶴浦康司、梅本由起子  |
| 循環器科   | 高元俊彦、土信田伸夫、古林正比古、大野篤行、伊藤祐輔、鈴木聖也                       |
| 消化器科   | 矢内常人、吉田玲子、松本浩之、佐野智彦                                   |
| 小児科  | 土屋史郎、長谷川毅、吉田香代子、遠藤明史、大野文誉                             |
| 外科   | 西村久嗣、西岡良薫、小野千尋、星野直明、村山忠雄、近藤純由、アディクリスナ・ラマ              |
| 整形外科   | 栗原良暁、関康弘、野木圭介   |
| 脳神経外科  | 新井俊成、森本卓史、工藤琢巳  |
| 皮膚科  | 小森一哉、若林知江   |
| 泌尿器科   | 鎌田成芳、岡田洋平   |
| 産婦人科   | 安水洗彦、小林久晃、加藤真也、佐藤徳郎、大久保大孝                             |
| 眼科   | 非常勤のみ   |
| 耳鼻咽喉科  | 川島真理子、田井真愛  |
| リハビリテーション科   | 浜崎義雄  |
| 放射線科   | 中川恒明  |
| 歯科口腔外科   | 飯野光喜、鈴木麻美、庄村江里子                                       |
| 精神科  | 水野和子  |
| 麻酔科  | 松澤吉保、石橋桜子、山本衛   |
| 健康管理科  | 大澤真   |
- ※ この他、各分野で研修医9名が診療や検査に携わっています。



## 薬剤部って、どんな仕事をしているのかご存知ですか? 薬剤部長 源川 良一

薬剤部は、現在私を含めて14名の薬剤師で薬に関する業務を行っており、患者さんが適切で安全な薬物療法を受けられるように支援しています。また、医師・看護師とともに24時間365日昼夜を問わず薬剤師の専門性を生かした業務を行っています。

薬剤部の業務は、調剤業務、医薬品情報管理業務、医薬品管理業務、病棟業務等に分けられます。特に、病棟業務では、薬剤師を病棟に常駐させることにより患者さんの治療に必要なお薬の作用、副作用、服用上の諸注意等についてきめ細かな説明を行っています。

また、患者さんの退院後も必要に応じて地域の調剤薬局や病院の薬剤師に薬に関する情報提供を行っています。

当院では医薬分業を行っているため多くの患者さんが院外処方せんで薬を受け取っています。院外処方せんの有効期限は、交付日(処方せんを受け取った日)を含めて4日以内です。有効期限内に保険調剤薬局へお持ちください。これを過ぎると無効となりますのでご注意ください。

## 救急外来から「ちょっと一言」

救急外来には、体調不良を中心に様々な問い合わせが数多く寄せられます。その数も年々増加し、平成18年度は1日当たりおよそ80件。それも夜間に集中する傾向があり、直接来院される方も含め、小児が多数を占めています。



救急外来では看護師3名が当直し、様々な不安を抱え電話をかけてこられる方に受診が必要かどうかを見極めながら、今できる対処法や解熱剤の使い方等を説明しています。しかし、電話の問い合わせはもちろんのこと、来院された方が自宅で安心して過ごせるようにじっくりご説明することが難しい場合があります。重症の患者さんの治療を行う救急現場では、その時の状況に応じて時間的にも人員的にも制約があるからです。

救急外来は時間外診療ではなく救急の患者さんを診るのが本来の目的であることをご理解ください。

なお、小児の急病については、小児科学会がインターネット上で作成した「こどもの救急」<http://kodomo-qq.jp>が参考になるとと思いますのでご利用ください。

外来では、当院のホームページを利用して「家庭で役立つケア」の豆知識情報の発信を進めています。

## 第4回こども健康教室

市民のための「こども健康教室-こどものアレルギー」を開催します。アレルギー性疾患は、気管支ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、じんましんなどの病気ですが、今回は気管支ぜんそくと食物アレルギーを中心にお話します。

- 日時 11月17日(土)午後2時30分～4時 受付は午後2時～
  - 会場 市立病院3階講堂
  - 講師 当院副院長 土屋 史郎(小児科)
  - 定員 60人程度(先着順)
- 事前の申込みは不要です。直接、会場にお越しください。託児室はありませんが、お子様連れでも結構です。
- 問い合わせ 小児科外来 ☎946・2200



## 助産師・看護師を随時募集中

### 採用年齢を49歳まで引き上げ

産科再開と診療体制の充実のため、助産師と看護師を随時、募集しています。採用年齢の上限を49歳までに引き上げました。当院は、24時間保育施設も完備しております。あなたの能力を活かしてみませんか!

- 職種 助産師および看護師
- 受験資格 助産師免許、看護師免許を有する49歳(採用予定時点)までの方
- 申込み期間 平成20年1月31日(木)まで
- 試験 日時は随時、内容は論文と面接
- 採用日 受験日の翌々月の1日

※ 募集要項および申込書は、市立病院経営管理課で配布しています。また、市立病院ホームページ(<http://www.soka-city-hospital.jp/>)からダウンロードすることもできます。

詳しくは、経営管理課へ。☎946・2200